

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば
 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	受容・傾聴・共感を理念に掲げている。安心して安全に暮らしていけるようにまた、その人らしい生き方を尊重するように心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール・リビング・スタッフルームに理念を掲示している。理念を細かく再考し職員が把握出来るようにしている。ミーティングで理念に沿ったケアが出来ているか意見交換等をおこなっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の一番目に付く所に理念を掲示しており、来訪者にも理解出来るようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方と挨拶をしたり周囲のごみ拾いをしたりして積極的に取り組んでいるが、近所の方が気軽に立ち寄ってもらうような日常的な付き合いは出来ていない。		積極的に近隣の方と交流が出来るよう取り組みをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治委員を引き受けたり、近所の活動(ごみ当番・年末年始の夜警等)に参加したりしている。今年は敬老会に参加し、機会があれば今後も地元の人々と交流するようにしたい。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で自治会長さん・民生委員さんにホームを憩いの場としての提供を持ちかけているが、実際にはおこなえていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をおこなう意義をスタッフに指導すると共にスタッフ全員で評価項目も記入した。前回の評価はスタッフルームに置いており閲覧可能にしている。ミーティングで改善策を検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事やホームで取り組んだ事等を報告しそれぞれの立場での意見を求めている。運営推進会議の内容をスタッフにも報告し行事やサービスに生かすようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況報告や相談等をおこなっている。グループホーム部会にも加入しており、市と連携を取りながら久留米市のグループホーム全体の質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入所者がいらっしゃる。必要な方には関係各所と連絡を取り合い支援するようにしている。今年度は勉強会を設けてスタッフが理解を深めることができるように努めている。		勉強会を設けて理解を深めるように努めているが十分ではなく、ホーム外の研修等に積極的に参加するようにして更に理解を深めようになりたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修会に参加し虐待を起こさない・見過ごさないように努めている。ミーティングでは、言動や行動が虐待に当たらないか等話し合っている。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項やホームの理念等を文書で表し説明を行い、納得した上で契約を交わしている。解約(病気入院中の部屋確保)についてはDr・看護師・ご家族等で納得のいくまで話し合いをおこない両者の合意の上でおこなっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、担当者が対応する事になっている。毎月、相談員さんが来訪されており部外者へ相談出来るようになった。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月新聞を発行しており、担当者が近況を報告している。必要に応じてご家族へ連絡を取り、病状の説明等の報告をおこなっている。		状況報告はおこなっているがまだまだ十分とは言えない。ご家族の思いを十分に汲み取ってケアに当たれるように更に検討していきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、担当者が対応する事になっている。毎月、相談員さんが来訪されており部外者へ相談出来るようになった。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの中でスタッフの意見や提案を聞き入れいちょうの杜全体での会議(事務・オーナー・管理者)の時に報告し検討するようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法定人員より1~2名多く勤務を組んでいる。緊急時等は速やかに対応出来るようにしている。行事等ある時は、勤務の人数を増やしたり、いちょうの杜全体で応援が出来る体制を取っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、本人都合以外での退職はおこなっていない。出来るだけ馴染みの関係が継続できるように努めている。いちょうの杜全体でスタッフの質の向上目的でホーム間交流があるが入所者が動揺しないように配慮している。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>性別・年齢を理由に採用不可を決定する事なく現在20代から60代の男女が勤務している。また、その年代に合った対応や役割を生かして各入居者が喜ばれるケアを行えるように取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する研修への参加。 今年度は全スタッフへの取り組みとして人権を題材にした内容のCDを聴き各自感想文を提出し、その後ミーティングの中で人権について考える時間を作り話し合った。</p>		<p>いちょうの杜全体で人権教育に取り組んではいるが、まだまだ不十分で今後の課題でもある。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全ホームでの勉強会を行い、各分野について学ぶ機会を設けている。全スタッフが参加出来る様に同じ内容を4回実施している。また、職員によっては各種研修会へ夜間や公休日でも参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>久留米市内のグループホーム部会や交流会・研修に参加したり、他の事業所の方の訪問もあり情報交換する事でサービスの質の向上に努めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>全スタッフ参加のストレスマネジメント勉強会を行ったり、各スタッフの悩みや相談を聞く時間を持つようにしている。食事会等を通して交流の場を作りストレスが軽減出来るようにしている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得へ向けての勉強の為や研修情報等を掲示し参加を希望する者には勤務状況や希望を配慮するようにしている。また、資格取得する事で給与に反映する事を伝え積極的に目指す事が出来るように努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があった際、本人・ご家族と面談を行う事で身体や精神状態を把握するように努めている。場合によっては、本部の担当職員の同席も求め細かな部分まで把握するよう努めている。安心して生活出来るように情報の共有をおこなうようにしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>来所時に本人や家族と面談を行い困っている事や不安な事等を把握し相談にのる事で家族の介護軽減負担になるように努力している。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族の必要としている支援を見極める為に面談を行い状況を把握することで、入居希望者にとって必要なサービスを提案するように努めている。面談時には必ずご家族へ”本人に合った生活が出来るように当ホームだけではなく他のホームも等の見学に行ってください”と伝えている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にご家族や本人と出来る限り面談を行うようにし、職員の顔を覚えてもらうように取り組んでいる。また、出来るだけ本人に見学へ来て頂いたり、体験入所を通して施設内の雰囲気に慣れ早く馴染めるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>身の回りの事や家事等、本人の出来る事は積極的に取り組めるような声かけや環境作りを行い、一緒に作業する事で入所者から学んでいけるように取り組んでいる。</p>		
30	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>外出・外泊へ協力して頂いたり、面会や家族も一緒に参加する行事等入所者と共に過ごす時間を持てるように取り組んでいる。又、入所者の状況を家族へ報告相談し話し合う事で、一緒に今後の入所者の介護や治療方針を決めている。</p>		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時の面談等で本人と家族の関係をj知る事で、その後もより良い関係が築けるように定期的に入所者の状況を新聞や電話等で知らせている。 また、外出、外泊面会等家族の希望を聞き入れて対応している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の了解があれば知人・友人の面会も常時可能である。電話での友人との会話や携帯電話の所持等必要に応じて知人・友人との馴染みの場所への外出も対応している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループでおこなえるレクリエーションの提供や家事作業による人間関係形成への援助を行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた利用者の家族が遊びに来られたり電話をかけ合ったりと関係が続いている家族もいる。 実際、亡くなられた方の家族が知り合いを紹介して下さったり一度退所された方が戻って来られたケースもある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や入所後の情報収集によりアセスメントを行い把握に努めている。 情報を元に本人の希望・意向に沿った暮らし方への対応を取り入れている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を家族や本人より収集したり、ケアマネ等からの情報提供を元にアセスメントに記入している。日々の生活の中でも本人からの情報も常にスタッフ間で共有して把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所時に家族や本人から情報を収集し、実際入所されてからの様子を観察している。 現状を把握した際に、記録等へ残す事でスタッフ間で情報共有している。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に意向や希望等を入所時に尋ねて希望や意向に沿ったケアプランを作成するように心がけている。又、状態の変化等あればご家族と連絡を取りケアの方針について話し合っている。		担当者を決めてケアプラン等作成しているが、看護師・介護職等と連携して、更なる質の向上を目指してケアプランを作成するように努めていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングをおこなっている。ケアプランの見直しの時期を定めてミーティングを行い本人の状態に応じて変更や継続をおこなっている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のカルテを作成し、記録していく中でスタッフ全員が状況を把握出来るようにしている。 又、特別な申し送り事項については、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他のサービスを提供する事は出来ませんが、入所時や看取り時等ご家族に宿泊出来るように場所の提供は行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員さん民生委員さん等連携を取り合ったり、生け花のボランティア・誕生会にはハーモニカ演奏のボランティアの方が見えています。消防による消防訓練も行い安心して安全に暮らす事が出来るように支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険で他のサービスを提供する事は出来ませんが、在宅に戻られる時など安心して継続したサービスが受けれる事が出来るように地域のケアマネやサービス提供事業者と連絡を取り合い支援している。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加を頂いています。必要な方には本人に合った支援が出来るように連絡を取り合い必要に応じてアドバイスも受けている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が付き添いをして受診し、本人・ご家族の希望に沿った医療が受けられるように援助しています。また、提携医をかかりつけ医としない方でホームでの看取りを希望される方については、往診可能な先生に変更する事も出来る事を入所時に説明し納得して頂いている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医が精神科の先生を有する医院であるため待ち時間がないように受診したり、必要時は電話でも相談したりしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職を配置する事で、日勤帯には必ず看護職が勤務して入所者の体調管理に当たり、急変時にも対応出来るようにしている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には頻回に顔を出すように心がけ、入院先の先生や看護師からなるべく現状の情報を頂くようにしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看取り介護や緊急医療体制についての説明を行い、ご家族の意見や希望も聞くようにしています。必要に応じてその時々で説明を行い先生とも面談を行いながら方針を決定していくようにしている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態について適宜話し合いを行い重度化していく方に対する支援が出来るように努めています。実際にターミナルに入った方には先生とも話し合いをしながら、安心して終末期が過ごせるように情報の共有を行っている。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージが最小で済むように情報の共有を行い、本人の生活が今までと変わる事なく出来るように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の状態に合わせて、尊厳を大事にして敬意を払って接するようにしている。 言葉使い等はミーティングで議題として取り上げて話し合ったり連絡ノートへの記載等で注意を促している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望や要望等に出来るだけ沿う事が出来るように、本人の状態に合わせた質問の仕方や自分で決定する機会(外食や買い物等)を持つようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが強制ではない。その方の状態や都合に応じて食事の時間や就寝等の時間を今までの生活リズムに合わせて支援している。 外出や買い物等もなるべく希望に沿うようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	特に希望がなければ訪問美容室を利用されている。髪型も本人の希望に沿ってカットしてもらっている。化粧品も好みの物を購入したりして使用されている。外出時や行事の時はお化粧品やマニキュアを楽しめ本人の望むおしゃれを支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	集団生活の為に完全に個人の好みに合った食事とは言い難いが、なるべく好みに合うように味付けや食材を変えて提供している。食事作りに関してはおやつ作りが中心だが引き膳等個人の状態に合わせた手伝いをしてもらうようにしている。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望するお菓子を購入し自己管理可能な方は自室で食べられたり、管理不可の方には適宜本人へ渡したりして支援している。糖尿病のある方は、ノンカロリーシュガー等使用している。お酒の提供も禁止ではなく養命酒を飲まれている方もいらっしゃる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方にはトイレ誘導を行い排泄のパターンを確認しながら紙パンツ使用を減らし布パンツ使用にて快適に過ごせるように支援している。夜間でも本人の状態に合わせて(失禁=オムツ)とせずにPトイレを使用したり出来るだけ本人の残存機能を生かすように支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り本人の希望に合わせて入浴するようにして、コミュニケーションと全身観察をしながら浴槽の中で手足の運動を動かす事で機能回復や機能不全の予防効果の支援を行っている。緊急の出来事や行事等で出来ない事もあるが、柔軟に対応するようにしている。勤務の都合上、夜間の入浴は行っていないが危険回避の為に今後行うつもりはない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間を決めるのではなく、本人の生活のリズムに合わせて就寝して頂いたり、リハビリ体操・レクリエーション参加や散歩等の活動を活発に行い、環境を整える事で心身共に気持ちよく眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力に応じて手伝い等を行ってもらっている。また、誕生会ではケーキのデコレーションをしながら出来る人が出来ない人の介助を行う等入所者同士の役割も出来ている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もあるが、大半は一緒に買い物に際、預かっているお小遣いの中から本人に手渡して支払いをしてもらっている。管理が出来ない方はスタッフで管理し買い物等の支援を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り希望に沿うようにしているが、天候の悪い日等は、その時の状況で判断している。 又、夜間についてはリスクが高い為に行っておらず今後行うつもりはない。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	親戚の集まりや映画等に出かけたり、スタッフや他の利用者と一緒に外食をしたり出来るだけ希望に沿うようにしている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話をかけることもある。携帯電話を持たれている方は自由に連絡を取り合っている。ポストへの投函は支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日と言っていいほど面会に見える家族もある。食事介助をしに見える家族もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてミーティングや勉強会の中で、現在行っているケアの中で拘束に当たらないか話し合う機会を設けている。拘束しないケアを目指しているが未拘束とは言えない部分もある。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自室にスタッフから鍵をかける事はしていない。ホールの出入り口も鍵をかけないようにしているが、入所後間もない方や利用者の状況に応じて、ご家族や他の利用者の了解を得て危険回避の為に鍵をかける事もある。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	嫌がられない程度での状況を把握し、危険な状態になることがないように配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	石鹸・ハンドソープ・消毒液は洗面所に置いている。刃物類に関しては扉のあるところや利用者の目の届かない所に収納するようにしている。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・誤薬は実際に起こっている。ヒヤリハットを元にミーティング等で話し合いをして事故防止についての情報共有を行うようにしている。火災は消防署と連携をとり消火訓練を行っている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを備えている。初期対応の訓練として看護師から指導を受けている。今年度は全職員が救急救命の研修を消防署で受講している。		緊急時にあわてずに対応出来るように研修等でスキルアップを図っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防と連携を取り定期的に訓練を行っている。近隣の方にも緊急時や災害時の援助をお願いしている。非常口が分かりやすいように誘導板を見やすい場所に設置している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に起こりうる事について説明を行い、実際生活をして行く中で本人に起こりうるリスクの説明を行っている。ご家族・ご本人が望むものや治療方針・介護方針等その都度話し合いを持つようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各個人のカルテの中に介護記録を付けてその中に本人の状態を記入し情報を共有出来るようにしている。申し送りノートを活用し既読者のサインをして情報の共有を図っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテの中に服薬情報を入れており確認できるようにしている。薬の変化があった時はカルテに記載し情報を共有できるようにしている。副作用が出やすい薬の処方時は申し送りノートを活用し、状態観察をするようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を元に排便確認をおこなっている。腹部マッサージをおこなったり、水分を多く取らせる等の工夫をしている。コントロールの付きにくい方には主治医へ相談し緩下剤等を処方して頂くこともある。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前の緑茶でうがいをしている。本人の状態に合わせた食後の義歯洗浄・口腔ケアの介助をおこなっている。歯科医による口腔ケア指導も受けている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を1日を通して記録することで摂取量が把握できるようにしている。水分制限がある方チェックをおこない状態に合わせた摂取が出来るようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、それに沿った対応をしている。仕事前後のうがい・手洗いの施行・マスクの着用をおこなっている。汚染物処理時は手袋着用し、便汚染時は塩素系漂白剤の浸け置き消毒をおこなっている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の消毒をおこない衛生面に注意を払っている。冷蔵庫内の賞味期限等のチェックをおこない野菜等はなるべく買い置きをせず、新鮮な物を必要な分だけ購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の看板は立てていない。玄関には花壇を設置し玄関内には、毎月ボランティアの方が生花を生けて下さっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り物をしたり、入所者と一緒に作成したカレンダーや写真・新聞を壁に貼っている。		

グループホーム いちょうの杜 諏訪野 わかば

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋では、入所者同士会話をしながら洗濯物を手伝って頂いたり、ソファやリビングでは自由に入所者同士で話をしたり雑誌・新聞等読んだりすることが出来るようになっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れていた物やなじみの物を持って来て頂いたり、本人の状態に合わせた家具(トイレ等)の配置等工夫をしている。仏壇を持っていらっしゃる方もあり本人にとって心地良い空間となるように支援している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機を設置している。起床時や清掃時はこまめに換気するようにしている。自室でトイレを使用される方には、消臭剤を使ったりして不快感を与えないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒しにくいようにバリアフリーになっている。階段も一段一段を低く作っており高齢者でも昇降しやすい造りになっている。リビング・廊下には手すりを設置している。シルバーカー・車椅子でも移動しやすいように移動の邪魔になるものは置かないようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	間違っって他の人の部屋や、違う場所へ行くことがないように家族の了解を得て自室に名前を貼ったり、絵や矢印で案内をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場となるスペースに椅子やテーブルを出して体操したりお茶会をしたりしている。2階のベランダは洗濯物を干せるようにしており、出来る方には手伝って頂くこともある。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない